

# 歴史と潮騒の散歩道



松くい虫被害により、枯れた松林を復元するため平成17年度から平成21年度までの5年間にわたり、グリーンウェーブキャンペーン事業として、浅羽海岸の東西約5km、7.8ヘクタールに、松枯れに強い抵抗性のクロマツ約17,300本を植樹するとともに、草刈りなどを地域住民をはじめ、市民、企業ボランティアの皆さんと協働で行っています。

よってこ!  
ポイント



**江川神社** 明治までは三十六所権現といわれた神仏習合のお宮。隣の排水路の名を付け、明治に江川神社となる。三十六所権現とは和歌山県熊野三山の神々の総称でもあり、熊野系の神社であることがわかる。



**万福寺** 富里松秀寺の末寺で元文元年(1736)に開かれ、釈迦如来を本尊としている。今は分離しているが、江川神社は万福寺・長江庵の東北に位置し、寺を守護する神でもあった。



**長江庵** 富里松秀寺の末寺で享保10年(1725)に開かれ、延命地藏菩薩を本尊としている。万福寺と共に漂着した唐人達の荷物置場となった。

ちょっと  
見聞



唐船万勝号

## 唐船の漂着

寛政12年(1800)12月のこと、湊の前浜に中国南京を出航し長崎へ向かった清国の商船が漂着したが、当時は外国との交流は長崎を除いて認められておらず、想像を絶する騒動となった。厳重な警戒のもと乗組員は太郎助村庄屋屋敷・新福寺・大島村大安寺に収容、荷物は湊の万福寺・長江庵に保管された。宿舎は柵を設けたり、警護の役人が周りを固めたりと、ものものしい様子が掛川の個人宅に伝わる『顛末画譜』に描かれている。3ヶ月後、乗組員の帰国が決定され、太郎助村を出立した一行は福田湊から下田・伊勢・瀬戸内海を経て長崎に到着した。この間、2ヶ月を要する航海であった。



荷物散乱之図▶

